

糖尿病患者の血糖コントロール目標達成率【入院】

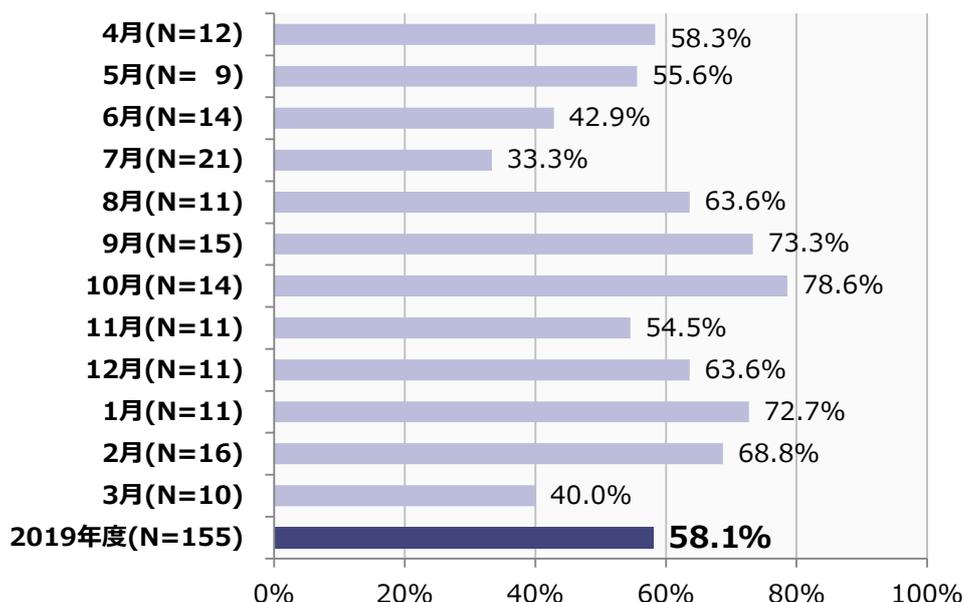
糖尿病患者の治療目標は、血糖の適正範囲内へのコントロールにより、細小血管合併症および大血管合併症の発症、進展を抑制し、健常者と同等の健康寿命を確保することにあります。

したがって、糖尿病治療に求められるのは、大きく血糖を下げるのではなく、適正範囲に血糖を到達させること、「Treat to target」です。

現在推奨されている血糖コントロールの目標値は個別の背景で考慮する必要はあるものの、一般的にはHbA1c 7%未満、血糖値としては空腹時血糖130mg/dl未満、食後2時間血糖180mg/dl未満です。

これを低血糖をおこすことなく達成するのが、入院治療における治療目標となります。

HbA1cは測定時から2、3ヶ月前までの平均血糖を反映するため、入院治療の効果判定には不適切であり、すべての時間帯において80～180mg/dlの範囲での血糖推移にコントロールすることを入院治療での血糖コントロール目標と設定、その達成率をQIとしました。



当院値の定義・算出方法

分子： 退院前日の毎食前後、就寝前血糖値がすべて目標範囲内の血糖（80～180mg/dl）に達した患者数

分母： 糖尿病教育入院患者数

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

結果の考察および改善策について

糖尿病教育入院患者における血糖コントロール目標達成率は、2018年度は47%でしたが、2019年度は58%と上昇しました。高齢者糖尿病が増加している現在、高齢者糖尿病では目標血糖値を緩和する方向へシフトしていますが、2019年の目標血糖値達成率は改善しています。これは高齢者であっても、重症低血糖を起こしにくい薬剤を選択していると同時に、高齢者だけでなく普通の糖尿病患者であっても、薬剤選択の幅が広がっているためであると考えられます。今後も個々にあった目標・薬剤選択を行い、オーダーメイド医療を推進していきたいと考えています。